

地方廳を訪れて〔五〕

一 記 者

岡山の巻

こゝは中國岡山の、流れも清き旭川、渡れば天下の後樂園……とは今の佐上北海道廳長官が會て岡山縣知事時代に作つた鴨綠江節だが、大自然の公園が觀迎されて國立公園などと騒がれてゐる今日此頃では、いかに三十一萬石の池田公が持えたものとは言へ、箱庭式の後樂園を天下の名公園と言ふことは出來ないであろう。併し土地の人は矢張り昔の名聲を維持しやうとして更に人工を加えるから一層反自然的な公園と爲つてゐる。公園道路の旭川に架けた鶴見橋でも變な型式で私等には何の感興をも起さしめない、夫人が愛郷心に燃えてやる公園對策は喜ぶべきことだが、夫

れが程度を超過して排外的と言ふと大袈裟だが他府縣人を排斥する思想の漲つてゐるのは困つたものぢや、私の訪れる岡山縣廳でも矢張り岡山縣人でなくては勤まらないと言ふことだ、高等官は中央政府が任命するから仕方が無いが、縣の任命する判任官以下の役人は岡山育ちでなければ一日も勤まらない有様で、日本に二つと見られない珍現象だ。

併し縣廳舍だけは夫れ程にも反時代的ではない、何でも縣令高崎五六の時代に建てた木造二階屋だが、まだ使用に耐え得るやうだ、近代人に言はしめたら採光や通風が不十分だと言ふであろうが、改築するまでには廳内に勤める岡山縣人の排外的思想の頭から改めてから無くてはならぬ木造廳舍の裏手に鐵筋混擬土三階建の廳舍が附加されてゐる

る、郡制廢止の爲に役人が殖えて狭いと言ふので佐上信一の知事時代に高梁川廢川敷地を賣つて十七萬圓で増築したのぢや想だ、詰り河川改修のお蔭で出來た廳舍ぢやだから増築廳舍の過半は土木課が占領してゐる。此廳舍の舊に繼ぐに新を以てしたものも何だが岡山縣人の思想を表はしてゐるやうにも見える。



長官安井英二、此間池田北海道

廳長官の退官に基いて行はれた地

方長官の交送で、勅任内務事務官

から現官に榮轉した人、大正五年

の帝大出で知事に爲つてゐるのは福

島縣知事の川崎末五郎と彼の二人である。

普通で行けば悪くて警察部長良くて内務部長位であるべき

筈の年代なのに此二人が榮進してゐるのは異數と言はねば

ならぬ、併し彼川崎は若い事務官時代から親父安之助が民

政黨代議士であつたのに胚胎して民政系統の役人と睨まれ



安 口内相の秘書官をしたから矢張り

井 政黨關係ぢやと言ふ者もある、或

英 は内務次官次田大三郎と同じ岡山

二

出身だからぢやと評するもある、

併し彼の眞價を知る者は決して夫

れに左袒しないであらう、そう言ふのは彼は

理論に終始する熱心な事務官であるからである。

曾て警保局事務官時代に其の職掌上當然なことではあつたが、社會運動に關する研究に没頭し、其の研究の結果は遂に勞働協約法論と言ふ著述を上梓した、今でこそ猫も杓子

自分も亦夫れを以て自任した爲に、政友會内閣時代には警保局事務官から、有名な政友系知事の長延連がゐた兵庫縣の平地方事務官に左遷されたりして、黨員紛々たる事務官であつたから現内閣の下で現地位を占めたのは當然であるが、安井は彼と全然異つて純眞な事務官として行動して來た、夫れに今の地位を得たのは何故であろうか、或は彼が内務省在官時代に濱

も労働問題を口にし筆にするけれども、大正十一年頃は夫れ程では無かつた、其の當時に於て彼は之に關する所見を公にして世に問ふたのであつた。帝大の學究連も其の所論に讃辭を呈し彼に是非博士論文として學位を請求せよと追つた位に、夫れ程彼の名著は學界を騒がせた。併し彼安井は學位の如きを眼中に置かない、唯だ研究した所見を公にしたに過ぎないと言つて斥けた、夫れ位に彼は事務の研究に専心するのである。地方局行政課長時代にも矢張り與えられた職務の研究を怠らなかつて、當時彼の著述した公營事業論は、地方自治制度に屬する傳統的な觀念を排斥し、

地方自治が社會の實生活に即して、有し又は有すべき意味を研討し夫れを中心にして公營事業の管理を論じたものであつて、其の所論は斯界に一大波紋を描かしめた。大阪市長鬱一の如きは夫れに共鳴し、内務省に此の如き人のある以上は、我國自治制の發達は將來喜ぶべきものがあると賞揚したとやら、囃されてゐる位に研究心の旺盛な事他の追随を許さない、今の官界には隨分澤山な研究家があつて其の

所論は學者の智能を凌駕するものが多い、併し研究に専らなるものは實務を疎する嫌があつて、夫れが爲に折角の研究も非難さるゝであるが、彼安井は其の避に捉はるゝやうな男ではなかつた、彼が行政課長時代に地方局長であつた佐上信一は、彼の手腕を評し、各種會議の議案は安井君に渡しておけば、起るべき問題、夫れに關する對策を詳論して呉るので、地方局長は鼻歌を歌つてゐても彼が居る間は安全だと、賞揚されたと言ふ位に模範的な事務家である。従つて儕輩を抜いて今の地位に就いたのも當然であつて彼は批評するのは間違だ。

偉大な手腕を有する彼も無愛想であるので人の誤解を招き易い、其の容貌は嚴格一點張りで融通が利かないやうに見える、従つて純眞な官僚式の男と見らるゝのである、筆者の眼も亦夫れの全部を否定する方に傾かないのであるか、夫れと言ふのも彼が學窓を出てから暫く東京府に勤めたりで内務本省の飯を喰ひ、夫れも官僚氣分の濃厚な警保局に永く勤めて地方稼業の俗塵を蒙ら無かつた勢であらう。

併し地方長官は凡俗な縣會議員を相手にせなければならぬ夫ばかりではない、政治は理論の通りに行はるものではない、従つて俗論にも聽き時には非論理的な考察で行政するも已むを得ないのである。彼に之が出来るか否かゞ疑問である。彼は小説や芝居を見ないものは人間ぢや無いと言つたとやら囁かれてゐるが、小説や芝居に表はれる事態は必ずしも理論的のものではない、彼に果たして心から此言葉が出たのか筆者は尙疑が除けられない、中央にゐて名を爲した連中が地方に出て往々にして失敗するのは此事理を辨えないのであるのだ、徒に縣會議員の歓心を求めるの

も排すべきことだが、要領よく立ち舞つて生れ故郷の名長官に爲つて貰ひたいものだ。

○

内務部長上田莊太郎、長官安井が純官僚式に見えるのに

黨色を發揮して行動してゐても彼は吾不關焉で事務を取つ



上田 莊太郎

官と爲つて神奈川へ轉ずるまで三年半も和歌山縣の飯を喰つたと言ふやうに田舎巡りをして居たから

だ。併し其のお蔭であらうか彼に

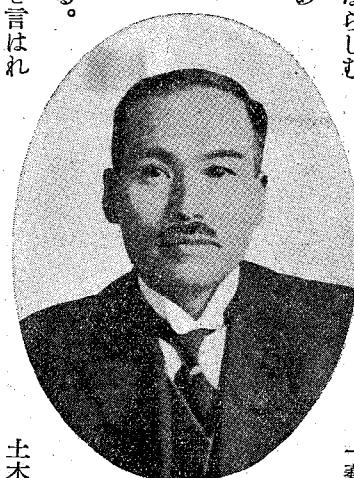
官僚的な氣分を發見することは出来ない、で

部下に對しても溫顏で指導し公平なことを言ふので可い部長ぢやと言つて尊敬されてゐる。民政黨の札付知事と言はれてゐる中野邦一に仕えたときでも、中野が例の調子で政

反して上田は温厚な貴公子型の男だ、長官よりは二年もお先きに大學を出ながら其の部下として働かなければならぬのは聊か氣の毒なやうな感もある。併し高文をパスしたのは同じ大正四年で其の歳の合格者で内務部長に居る者も尠くないのだから餘り悲觀するにも及ばないであらう。併し兩者に此間隔が生じたのは彼の官界スタートが悪かつた勢である、彼は學窓を

てゐると言ふ調子だから、野黨政友會からも餘り非難されない、唯だ彼に惜む所は酒を飲み過ぐることだ、民政會系の大官が言ふやうに身を持するに嚴に……何つて言つて人間である官吏を棒枕のやうに取扱ふとするのは大きな間違であるにしても、餘り私慾に奔放なのも考へなければならぬ。彼は其の飲み慾を餘りに自由ならしむる爲に時間の觀念を忘れる場合があ

る想だ、古い言葉ぢやが酒は百藥の長と言はれ、之が飲めないやうな人間は寧ろ憐みたい位だが、程度を超過して溺れてはならぬやうに抑制するのが人間たる所以である。



長谷川勝伍

土木課長は長谷川勝伍、全國土木課長の中でも上乘のものと言はれてゐる位に彼は確かりものである。帝大出が大部分を占めてゐる

てゐる、夫れにつけて有名なのは彼の妻君の行動である、妻君は前文相小橋一太の姪であるが、彼が大酒を飲んで前後を忘れ料亭の女に連れられて官舎に歸つても彼女は叮嚀に應接謝禮して、世間の女に良く見る嫉妬心などを専らしも

見せないと言ふことだ、寛に貞淑な女ぢやと離されてゐるが、之を可いことにして飲み過ぎては妻君の氣持を辨えないものと言はねばならぬ、いかに良い頭の持主でも酒の爲に身を亡した事例は數ふるに違ない位だ、厳格一點張りの知事の女房役としては酒を飲むで縣會議員を操縦するのも一藝かも判らないが、彼の將來の爲に節酒することが必要であらう。

ので世は眞暗闇、何から手を出して可いのか東も西も判らない、夫れに長官中野邦一は例の調子で九月の縣議選に備へやうとしてゐる折柄だつたので彼はほとゞく困つたらし

い、岩手では同郷の先輩丹羽七郎知事に巡り遭つて大に手腕を伸ばそうとしたが、頼みの親父知事には去られ愛兒は病氣をすると言つた調子で悲觀したのに岡山へ来て又此懶み、同僚をして同情せしめたが、待てば甘露の日和とやら安井知事を迎へて近い將來春が來たやうに思つてゐるだらう。今から一二年前は實に彼の受難時期であつた、夫れも其の筈だ厄年だつたもの。

彼に熱のあるのは矢張り會津産であるからだ、そうして竹を割つたやうな性格は人から可愛がられる、併し土木課長の職務は仕事をしなければならぬ、此處一二年の間爲さむとして爲し得なかつた彼の手腕を振はしむるのも今日を指て他に無いであらう。由來岡山は起すべき土木の事業が頗る多い、併し縣民が消極的に出來てゐる爲か、餘り起工を喜ばない風があつて中國に位しながら他の府縣よりは後

れてゐる、之を打壊して土木事業の効果が縣民生活にどれだけ影響するかを自覺せしむるのは蓋し彼の任務でらあう

○

昭和六年度縣歲出總額八百三十四萬圓、内土木費は纔に百六十三萬圓で經常部が八十三萬圓、臨時部が八十萬圓と言ふ割合に爲つてゐる、矢張り各税とも制限外の課稅をしてゐて、起債は四百九十七萬圓に達してゐるが、罹災救助基金を運用してゐるから外部からの借入は五十萬圓位に過ぎないと言はれてゐる。由來岡山は借金が無いと言ふのを誇つてゐるのであるが、夫れは今の内閣専くとも井上藏相の財政方針には合致するかも判らないが、起債の償還能力が無いものは格別だが、之がある場合に於て借金をして事業を興し夫れに依つて縣民の利益を擧げるか、夫れとも借金を厭つて何事も自然の成行きに任すかは考へものだ、だから縣債が他府縣に比して勢いと誇つてゐるやうなことは、一面に於て貧乏が然らずむは消極退歩を物語るもので耻にこそなつても誇とは爲らぬ。

山陽道を旅して兵庫岡山兩縣境にある三石峠を越える、東から來るものは俄に良路となるのに驚き、西から來るものは俄に惡路となるのに驚き、西から來るものは俄に良路となるのに驚く程左様に岡山縣所屬の國道が悪いのである。全國交通の幹線でも此有様だから他は推して知るべし。先年誰だつたかの知事時代に、道路は上級のものが多いた方が可いと考えたものか澤山な府縣道を認定して今では國府縣道二千五百里に及んでゐる、夫れに自動車が通ることの出來る道路は其の半數以下の九百里しかない有様だ、之に對して年額纔に三十九萬圓の維持費を投じてゐるだけで、山間部の陸上交通に重きを置かなければならぬ土地でありますながら自動車が餘り發達しないのも道理である。尤も岸本正雄が知事をしてゐる時代に總額九百萬圓の道路事業や五十萬圓弱の小田川改修工事などを計畫して今は夫れを繼續して執行してゐるが、年額五六十萬圓の金では何事も出來ないモ一渺し縣民を覺醒せしめ大に土木を起す必要があらう。

○

此處、岡山は政友全盛の地だ、此間の縣會議員の選舉には中野邦一が與黨の爲に奔走したお蔭だらうが、十名の民政系議員の増加を見たが、政友二十三に對し民政十六と言つた有様で民政は足も腰も立たない譯だ、代議士も政友六名政四と計算され、知事が如何に畫策しても政友の政策と行動とに追隨するの外はないであらう。

政友會は例の快男兒岡田忠彦が支部長を勤めてゐるが、常に東京に居住して餘り暇らないので、犬養の乾分と言はれてゐる支部幹事長の内田彌太郎が留守番をして統制している、併し此處の政友會は昔の人氣男、犬養毅の統制した革新俱樂部の政友會合併と言ふことに依つて、泣いて政友會に這入つた連中が多い、言はず腹違ひの子の集合だから時に暗鬪が行はれる、犬養系に屬するものは岡田忠彦、本來の政友に屬するものは前代議士の玉野知義で兩者は眞に合體してゐない、前縣會のときでも兩者相合はない結果政友會内に縣政研究會と言ふやうな小派を起して騒いだ、此間の選舉でも矢張り候補者の選擇に問題を起したと言ふ調

子だから、知事が其の間の消息に通じて事を策するときは、政友の多數必ずしも恐るゝに足らない有様だ。

民政系は財政學の權威、博士小川郷太郎が支部長を勤めてゐる、之も岡田と同じやうに東京在住者なので、倉敷の市會議長をしてゐる古屋野橋衛が留守參謀長として活動してゐるが、之も亦政友會の眞似をした譯でもあるまいのに、黨内に小派を立てゝしつくり合つてゐない、小川に對抗して苦勞ものゝ西村丹治郎が一派を率いて對抗してゐる有様だ、假令小川に學識があつても代議士の當選十數回に及ぶ西村が、彼れ小川の命令を丸呑にする譯に行かないのは當然であらう。夫れに西村は小川と違つて人間味を多分に持つてゐて、萬人に好感を與えてゐるから、一層そう爲るのであらう。併し此處の政友といひ民政も其の内部に小黨を立てゝゐるやうなことでは、何時如何な事情に基いて分離作用が行はれるか判らない、言はゞ噴火口上の家屋の感がある。之も矢張り岡山縣人特有の個性の然らしむるところであらうか。

おことはり

大阪府廳を訪れて、大阪府の土木事業費を紹介したのに對し、同府土木部長の灘江武君から叱責された、成る程良く調べて見ると特別會計に都市計畫事業費として三百二十六萬圓の豫算があつたのに、之を落してゐたことは寃に恐縮する。之で大阪府の土木費總額は約七百八十萬圓に達する譯であるが、灘江君が言はれるやうに追加豫算を計上すれば一千萬圓に爲る。併し私の計算は當初豫算を目標としてゐるから七百八十萬圓と計算したい。夫れでもまだ大阪市の執行する土木事業に比較すると、餘り大きな顔も出來ないやうな感がある、何も市と府と競争して不要な土木事業を起す必要はない、切に急務とする事業からやつて貰ひたいのだが、攝津の山間部に於ける道路などは最も急を要するものゝ代表的なものであらう。灘江君が赴任以來銳意土木行政の進展に努めてゐて吳れる功勞に對しては深甚の敬意を表するが、尙一步進んでは等の方面に手を附けて貰ひたいものだ。